



vol. 04

しんどさんこばなし

一步先の、新とさんこを
新とさんこ研究所
山岸所長が訪れる

「なぜだろう?」 おもしろいことは 疑問から始まる



新とさんこ

#04

美馬のゆりさん

公立はこだて未来大学 システム情報科学部 教授 東京都出身
電気通信大学で計算機科学、ハーバード大学大学院で教育学、東京
大学大学院で認知心理学を学ぶ。2000年開学の公立はこだて未
来大学には構想から関わり、函館へ移住。はこだて国際科学祭の企
画運営、函館ハーフ研究会の立ち上げなど、活動は学外にも及ぶ。

● 公立はこだて未来大学 ●
函館市電田中野町1-6-2 電話:0138-346448(代)

理想の大学をつくるため 東京から函館に移住

函館市街を一望する高台に、一見、美術館のよう
なガラス張りの建物がある。こは、公立はこだて
未来大学。1階から5階まで吹き抜けの「スタジ
オ」には壁や仕切りがなく、学生たちは好きな場所
で自由に活動する。教室や教員室もガラス張り、
学生や教職員の行動は丸見え状態。「見えるからお
互い刺激できるの」と笑顔で話すのは、この近未来
的な学びやを20年前に構想した張本人、教授の美
馬のゆりさんだ。

東京で生まれ育った美馬さんは、中学・高校と数
学部部長を務めたという根っからの「リケジョ」だ
が、それだけではない。コンピューターを学習に応用
するために、教育学や認知心理学も学んだ。その集
大成ともいえるプロジェクトが、はこだて未来大学
の開学。美馬さんは構想から携わった大学で教える
ため、2000年、小学3年生だった息子さん、同大
学の教授を務めるご主人と共に東京から移住した。

できることを探して楽しむ

氣候のいい函館の暮らしを気に入っているとい
う美馬さん。大学の枠にとらわれず、地域と連携した
活動にも熱心だ。そのつが09年から続く「はこだて
国際科学祭」の開催。期間中、市内近郊のさまざま
な場所で子どもから大人まで気軽に科学とふれあ
える。「函館には科学館がありません。だから科学
祭を企画しました。こちらから出向いて科学の楽し
さを見せるお祭りなら、幅広い層の人たちに参加し
てもらえる。できないことを嘆くよりも、できるこ
とを探した方がいい」と美馬さん。科学を楽しみた
いボランティアグループも結成され地域に根差した
活動として定着した。ほかにも、函館に自生するク
ルマバ草を使った新しいブランドを構築。「こんな
いいものがあるのに、使わないなんてもったいない」
その目を輝かせる表情はすっかり「函館の人」だった。

インタビュー

新とさんこ研究所 所長

山岸 浩之

Hiroyuki Yamagishi

2014年北海道博報堂入社。

コミュニケーション戦略局長兼マーケティング部長として、
北海道の様々なクライアントの戦略立案やリサーチを担当。



北海道民の81%は
地元北海道の大ファン。
北海道の地元意識はこちら

<http://shindoken.com>

新と研

新とさんこ研究所